

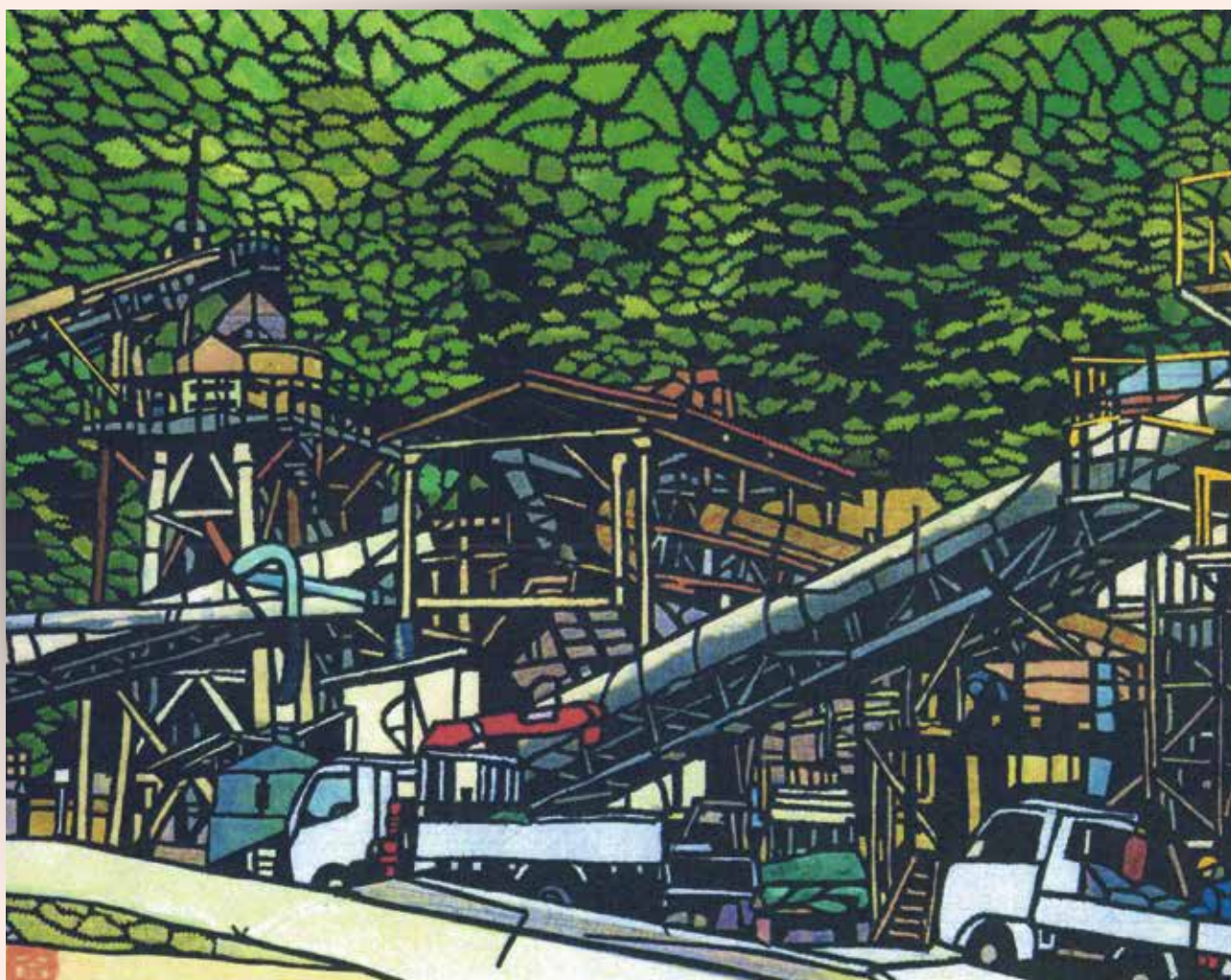
人づくりまちづくり 情報誌

No.

80

令和6(2024)年
9月号

あくていぶ



わがまちたかつき
切り絵紀行

「採石場」(原)

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

見つけた! このまち・このひと♡

「あくていぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました

このまち、見~つけた!

あちこち訪問

大阪コリアタウンと 歴史資料館を訪れて



一般社団法人 大阪コリアタウン

JR鶴橋駅の南東約1キロ(徒歩15分)にあり、3つの商店街(御幸通、御幸通中央、御幸通東)が統合して発足。東西約500mにキムチなどの韓国食材や民族衣装、韓流スターのグッズなどを扱う約150店が軒を連ねている。

今めっちゃブーム♥なまち

韓国スイーツは可愛らしさや斬新さがインスタ映えすると、若い女性を中心に人気を博しています。伝統と革新が交差するこのまちでは、伝統的な朝鮮食材を使用しつつも新しいスイーツに応用することで、昔と今の間の橋渡しをするような味がヒットの要因。店頭では「タンフル」「トゥンカロン」「クロッフル」などカラフルさが一層魅力を引き立たせてくれます。「キムチ」も新しい食材とのコラボでより進化を遂げ、店頭は何十種類も並べられています。ミニキンパ、チヂミ、トッポギなどお馴染みの韓国フードも、生まれ変わった街でお楽しみの一つである「食べ歩き」に一役買っています。

ダイバーシティ(多様性)のまち

生野区は朝鮮半島にルーツを持つ人だけでなく、区民の5人に1人が外国籍住民、およそ80以上の国や地域の人々が生活しています。

この地域の課題解決と多文化共生の新たな拠点として2023年に小学校跡地を利用して「いくのパーク」が開設されました。ここは文化、教育、福祉、防災の複合施設で、国籍・性別・年齢に関係なく集える「機会と場所」を提供してくれます。



▲街を案内頂いた
コリアNGOセンターの金さん



▲いくのコーライブスパーク
(通称: いくのパーク)



◀トゥンカロン= 太ったマカロンの意味

一般社団法人 大阪コリアタウン歴史資料館 (生野区桃谷4-4-11)

●開館 午前10時～午後5時 (水曜日休館) ●入館料 一般300円

当館は、在日コリアンの歴史資料館ではなく、地域住民と共生して発展してきたコリアタウンの歴史の一端を展示しています。館長の高さんが「朝鮮半島から来たことを隠すことなく、むしろ前向きに出して発信していくことで、今のコリアタウンができたと思っています。この姿が、今後の日本が求めていくべき、多文化共生の一つの成功したモデルケースであることを伝えていきたい」とお話しされたのが印象的でした。



人権と共生のまち



▲説明いただいた館長の高さん

在日一世は、朝鮮半島の風土に根付いた生活習慣をそのまま日本に持ち込み、その習慣は食材をはじめ、食器、衣装など、日本とは大きく異なっていました。1930年代、商店街の路地裏に、独自の食材や衣料品を中心に、多い時では約82店舗の「朝鮮市場」が生まれ、活気を呈していました。チマチョゴリを着た買い物客でにぎわう写真が当館にも残っています。1980年代に大型スーパーの進出や、世代交代によるアイデンティティや生活様式の変化等で市場は一時衰退しましたが、日本人と



異文化を感じるまち
濟州島の守り神トルハルバン(石のおじいさん)、ぜひ探してみよう！

在日二世を中心に民族色を生かした「コリアタウン構想」を立ち上げることで、発展を遂げました。

2003年「冬のソナタ」が火をつけた韓流ブーム。サッカーの日韓共同開催、K-POPの人気の波にも乗って、現在では「聖地」として国内外から年間200万人の訪問者を迎えています。それに伴い起こる課題(公衆トイレ、ゴミ処理等)を共に協力しながら解決することで、さらに「人権と共生」のまちづくりを発信しています。

キムチ

今や日本で一番売れている漬物。以前は「朝鮮漬」と呼ばれ、ニンニクのおいと相まって敬遠されてきたが、84年のロス、88年のソウルオリンピックの選手村でキムチが人気を呼び、世界中で知られるように。当時は韓国と日本の食品衛生法が異なり、簡単にキムチを輸入することができなかった。そこで活躍したのが、大阪コリアタウンで作られたキムチ!

定番の白菜、きゅうり、大根の食材に加え、セロリ、トマトや山芋、魚介系(カキ、チャンジャ)、汁を味わう水(ムル)キムチもあり、その種類はコリアタウンでも100~200種類とも言われる。漬ける薬念(ヤンニョム)は20~40種の香辛料、食材で、家庭、地域によって味が異なるので、この商店街の中でも自慢の味の違いを楽しむことができる。

混ぜて食べる

昔から伝わる山神祭、村祭は、家から離れた場所で開かれる。人々が集まった所に食器が十分になく、供え物を神様と分かち合って食べるため、一つの器にあれこれ混ぜて食べるようになったのが「ピピン=混ぜる」が始まりです(諸説あり)。ご飯(パブ)にのせるのがピピンパブ。

金属の食器とお箸

重くて熱を通しやすい食器をよく使い、お茶碗やお椀は、持ち上げずにテーブルに置いたままで食べるのがマナー。お箸を使うという日本との文化は同じでも、食事のマナーはそれぞれ。

キムジャン

新鮮な野菜が手に入らない冬に備えて、初冬頃に大量にキムチを作る年中行事。人手がかかるため、親戚や近所、地域で順番を決め、各家のキムジャンを行う。当番家は茹でた豚肉を用意し、新たに漬けたキムチでもてなす。人々が交流する大切な儀式と習慣。2013年ユネスコ無形文化遺産登録。

食文化あれこれ

あちこち訪問感想

- 孫や姪っ子も夢中になっている「K-POP」や「BTS」で勢いつき、この日も人、人、人で賑わっていたが、まだ少ない方だとか…。
- 北も南も関係なく、在日が在日であることを隠さず生きられる街。外国人も、障がい者も、子どもも、高齢者も普通に住んでいる街—「コリアタウン」いいなあ!
- 開かれた場づくりを目指して行きたい…と猪飼野の人たちの思いが熱く伝わってきた。
- 在日一世、二世が築き上げた生野多文化の街、多文化共生の街を引き継ぎながら「共生の砦」とし、たくましく生きている決意を教わり体感できた。
- 一人ひとりが共に平和に暮らしていることを学ぶことが出来た。「幸せになるために生まれ、幸せになるために生きている命を、愚かな戦争で失うなんて絶対に嫌だ」と、おいしいキムチを食べながら思った。
- 生きる場を求めて移り住んだ在日コリアンの、歴史や思いを「食」を通して学んだ一日でした。

このひと、見~つけた!

BEER BASE TAKATSUKI

(富田町3-9 イオンフードスタイル
摂津富田店の向い側)

かわさき あきひろ

川崎 昭博さん(写真左)

こばやし まさゆき

小林 将元さん(写真右)



できたて冷やっ冷や〜



**ビール好きな人なら、誰でもあこがれる？
友人と一緒に醸造したクラフトビールを飲む…。なんとすばらしい贅沢！
今、工房では美味しいクラフトビールが出来つつある。**

本誌発行80号を記念して、市内で人権課題に取り組んでおられる人を紹介する
新コーナー「このひと、見~つけた!」をたちあげました。

初回はご自身の退職を機に第二の人生を豊かに過ごすこと、また現職中に疑問を感じた
障がい者雇用の在り方を模索し、新たに会社を立ち上げられた、当協会副代表理事でもある
川崎昭博さんに寄稿をいただきましたのでご紹介します。



Aでもなく Bでもなく ~クラフトビールを造る~

株式会社 C-style

代表取締役 川崎 昭博

取締役 小林 将元

何らかの事情で「生きづらさ」をかかえる若者に、
生活の立て直しや就労支援の場を提供する NPO 法人
と、障がい者の暮らしを支える社会福祉法人の理事長
同士で小さなブリュワリーを立ち上げました。障がい者
の就労支援制度には A 型や B 型がありますが、決まっ
た日と時間に事業所に行けない人もいます。その人たちは
制度利用が難しいというのが現状です。そこで、そ
のような人たちも関わることをできたという思いで、A
でもなく B でもなく C というかたちで会社の名前を株式
会社 C-style としました。

私たちはクラフトビールの世界観が大好きで、その大
好きなクラフトビールを造る工程に支援の必要な仲間を
巻き込んでいきたいと考えました。醸造免許取得はハー
ドルが高く、構想 3 年、準備に 1 年と、具体的に醸
造販売まで動き出すのに多くの時間を要しました。

これから、醸造の場面や味や香りとなる原料の生産、
製造過程での各種作業、店舗やイベントでの販売など、
参加できる「場」を生み出しながら、経済活動を活気

づかせることで、生活が少しでも豊かになれるよう取り
組んでいきたいと考えています。

また、醸造過程で出てくる麦芽粕を肥料へ活用する
ことや皆さんに飲んでいただいた後の瓶の再利用等、
地球環境や SDGs につながる取り組みなども意識しなが
ら進めています。

BEER BASE TAKATSUKI が、街に親しまれる醸造所
になれるよう頑張りますので、応援してください。どう
ぞよろしくお願い致します。

感想

- 将来的には、店も開いて、障がいがある人たちの働く場所にもしたい…等々、ゆめがいっぱい。お二人の素晴らしい思いと、行動力にカンパイ!!
- 老いていく不安が、お二人の笑顔でフッ飛びました。まだまだ、何かできるかも…。

参加費
無料

手話
通訳

要約
筆記

あり

「私もあなたも みんなが暮らしやすいまちとは？」

- 会場 クロスパル高槻（総合市民交流センター）7階 702会議室
- 時間 午後2時～（開場:午後1時30分） ■定員 各回事前申込順100名
- 申込期間 9月4日（水）～各回定員に達するまで

第1回

9/27



亀岡集団登校交通事件被害者遺族の思い～深まる苦しみ、広がる傷口～

なかえ よしのり
中江 美則さん NPO法人ルミナ理事長

発生から10年余りが過ぎた亀岡集団登校交通事件は、どれだけ長い月日が流れても、被害者遺族の苦しみは癒えることはありません。全ての人が安心して暮らせる社会を作るために活動されている被害者遺族のお話を伺います。

第2回

10/4



やる気を引き出す魔法の言葉かけ～ペップトークを身につけよう～

ふじえ まさなお
藤江 正直さん ひとみらい共育LABO代表理事

人をやる気にさせて、勇気を与える言葉かけです。家庭で、職場で、友だち同志で、勇気づけたい人がいるなら誰でも使えるスキルです。不登校の子どもを抱え悩んだ経験から身につけられたスキルをお伝えいただきます。（ワークショップあり）

第3回

10/11



新聞の伝え方、出来事にツッコもー！～メディアから考える多様性～

いしざき たつや
石崎 立矢さん 京都新聞社メディア局読者交流センター長

ニュースはどのように作られているのでしょうか。同じニュースでも印象が違うのはなぜでしょう。皆様一人ひとりも情報発信者（メディア）。世の中の出来事や情報の伝え方にツッコんでみましょう。（ワークショップあり）

第4回

10/18



日常生活に埋め込まれた無自覚の差別～マイクロアグレッション～

まるいち しゅんすけ
丸一 俊介さん 公認心理師・精神保健福祉士

マイクロアグレッションとは、無自覚に心に宿る偏見、思い込みが言動や態度に表れ、不愉快なメッセージとして伝わり、意図せず誰かを傷つけてしまうことです。自分の無自覚な偏見と向き合ってみませんか。

第5回

10/25



幸せのつくり方～被差別の歴史をもつまちに生まれて～

ふじお
藤尾 まさよさん 崇仁発信実行委員会代表

PTA役員時代に生徒が受けた差別事象をきっかけに、部落問題を学習する中で自身の「寝た子を起こすな」の生き方の間違いに気づかれました。「人権学習は幸せの学習」学べば学ぶほど自分も周りも幸せになる考え方と行動が身につけられます。

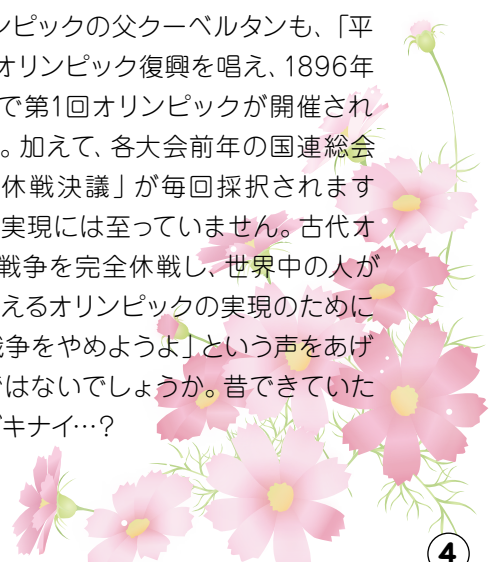
コラム オリンピック平和

高槻市人権まちづくり協会人権啓発指導員
藤澤 善富

パリで行われたオリンピック・パラリンピックも感動のうちに幕を閉じ、4年後のロサンゼルスへと旗が引き継がれました。

オリンピックの起源である古代オリンピックは紀元前776年に始まりました。この当時のギリシャでは、都市国家間で戦いが繰り広げられていましたが、宗教行事としての意味合いを持っていた古代オリンピックは戦争よりも意義のあるものとされ、オリンピック期間中は完全休戦して開催されました。これが「聖なる休戦」で、開催期間の前後3か月間は武器を持つことを禁止し、選手や観客の安全を確保しました。このことは、1169年間の長きに渡り破られませんでした。

そして、近代オリンピックの父クーベルタンも、「平和の祭典」としてのオリンピック復興を唱え、1896年にギリシャのアテネで第1回オリンピックが開催され現在に至っています。加えて、各大会前年の国連総会では「オリンピック休戦決議」が毎回採択されますが、実際には休戦の実現には至っていません。古代オリンピックの様に、戦争を完全休戦し、世界中の人が「平和」の一点で集えるオリンピックの実現のためには、一人ひとりが「戦争をやめようよ」という声をあげていくことが大切ではないでしょうか。昔できていたことが、なぜ、イマデキナイ…？



心の豊かさを求めて

6月1日
に開催



子どもから大人まで楽しめる

トーク&コンサート

みゆきさんの温かい歌声とギュラさんの巧みなピアノ演奏に合わせて、ハンガリー文化の紹介、命のすばらしさ、心豊かに生きるお話がありました。

ハンガリーの
文化と音楽を
お楽しみください

視聴無料

申込順300名

6月1日のステージを限定配信します。

配信日 (予定) 12月9日(月)～
令和7年1月6日(月)

視聴にはお申込みが必要です。
詳しくは協会ホームページをご覧ください。

感想より

- いのちの大切さ、子どもに生まれてきてくれてありがとうの気持ちを改めて感じました。
- 普段、忙しく過ごしていますが、ゆっくりと自分や娘のことを振り返ることができました。
- 生きていることが辛くなる時もあるけど、今日の事を思い出してがんばれそうです。



PMS(平和医療団・日本)

中村 哲さん(経歴)

- 1946年 9月15日福岡県で生まれる。
- 1973年 九州大学医学部を卒業。
- 1998年 ベンジャールにバキスタン・アフガニスタンでの活動の恒久的な拠点となるPMS基地病院を設立。
- 2010年 マルワリード用水路完工。その他モスク(イスラム教礼拝所)とマドラサ(イスラム神学校)も建設。
- 2019年 アフガニスタン政府から市民権を授与される。
12月4日凶弾に倒れる。(享年73歳)

8月8日、9日 第38回 平和展

主催：高槻市

「武器ではなく命の水を届けたい」を開催

「平和とは単なる理念や理想ではない。
戦争以上に積極的な力でなければならない」

これは中村哲医師の言葉です。今回の平和展では、長く紛争が続くアフガニスタンの人々に、生きる力を与え続けた中村哲さんを取り上げました。

2000年アフガニスタンで大干ばつが発生し、飢えと渇きから不衛生な泥水を飲み、赤痢などの感染症を発症し、多くの犠牲者を生みました。「どうして毎日患者が増えるのか」。そしてたどり着いた答えは“水”でした。

中村医師は戦災と干ばつに襲われた国に、自ら井戸を掘り始めましたが、事業を進める中で直面したのが地下水の枯渇でした。そこで、2003年に近くのクナル河から水を引く用水路の建設を始めました。

「一致して協力し復興の範を示すことが我々の使命である。
これは我々の武器なき戦いである」。

自ら率先して重機を操り、現地住民との共同作業のもと、7年の年月をかけ2010年にマルワリード(真珠の意味)用水路が完工しました。

この用水路によって砂漠化していた農地が復活したことで、コメや小麦の栽培で生活ができるようになり、今も70万人の命と生活を支えています。

一人の日本人医師の生き方を通して、私たちが平和のために何ができるか考える、第一歩となることを願います。

人権草の根活動

いずれも受講無料

第三中、第四中、如是中学校区地区単位会

優しさは笑顔から ～人生は喜怒哀楽～

要事前申込

講師：喜怒哀家 哀楽さん 社会人落語日本一決定戦第九代名人

日時：10月5日（土）午前9時30分～（開場9時）

会場：富田ふれあい文化センター地下大ホール

定員：申込順100名（手話通訳あり）

申込期間：9月4日（水）～定員に達するまで

申込・問合せ先：富田ふれあい文化センター窓口へ

①直接又は ②☎647-7825、FAX647-7233 ③上記QRコード、ホームページから



城南中学校区地区単位会

心も体もリフレッシュ
コーラスの楽しさを体感してみませんか？

申込不要

心がつながるコーラスの魅力

歌唱

福山 朋子さん

（一社）楽育脳音楽協会チーフ

ピアノ

案浦 多美子さん

（一社）楽育脳音楽協会 代表

リコーダー

深本 修三さん

宝塚ミュージックリサーチリコーダー科講師

日時：10月5日（土）午前10時～

会場：春日ふれあい文化センター3階 大集会室

定員：先着順60名（手話通訳あり）

問合せ先：

春日ふれあい文化センター窓口

一般社団法人高槻市人権まちづくり協会

☎671-9604



第八中学校区地区単位会

シニアライフを楽しむために

講師：徳武 聡子さん

司法書士・終活カウンセラー1級

要事前申込

日時：10月25日（金）と10月30日（水）

午前10時～（同じ内容で2日間開催）

会場：市立磐手公民館2階大集会室

定員：各回申込順40名（手話通訳あり）

申込期間：10月4日（金）～11日（金）まで

申込・問合せ先：

市立磐手公民館窓口へ直接または

☎685-2110



編集後記

新聞紙面で「おこらいえ」という言葉に出会った。石川県輪島市の一部地域に伝わっている言葉で、相手に感謝の気持ちを伝えたり、元気づけたりする時に使われるようだ。

1月に発災した地震のひどい爪あとをニュースで見ると胸が詰まって来る。普段の生活が突然断ち切られることは想像を絶するが、能登の人たちの強さと、お人柄に感銘を受けた。元の生活が少しずつ復興しているように思えるが、安心して住める能登が一日も早く戻ってくる事を願わずにいられない。“おこらいえ”

人権を考える市民のつどい 記念講演会を開催

講師 ^{きょうや かずゆき}**京谷 和幸** さん（車いすバスケットボール男子日本代表ヘッドコーチ）
元Jリーガー。車いすバスケットボールでパラリンピック4大会連続出場。東京大会ではヘッドコーチとして史上初となる銀メダルを獲得。現在は、サッカー指導者と車いすバスケの強化・普及という2つの夢を追いかけている。



日時 12月7日（土）
午後2時～（開場：午後1時30分）

参加料
無料

会場 市立生涯学習センター 2階 多目的ホール

定員 事前申込順 300名

申込期間 11月5日（火）～定員に達するまで

保育あり

3歳以上未就学児5名
要事前申込

手話・要約筆記
あり

人権啓発作品を募集します

1. 募集部門

- ① **作文（読書感想文を含む）** → 400字詰め原稿用紙**4枚以内**。
- ② **標語** → 形式・長さは自由。
- ③ **絵画（ポスターを含む）** → **手書**：用紙サイズは画用紙**4つ切以下**。
パソコン：用紙サイズは**A2サイズ以下**。

2. テーマ：人権・平和に関わるテーマであればOK

3. 応募資格 市内在住、通勤・通学・通園者

4. 募集期間 7月5日（金）～10月11日（金）必着

5. 応募方法 応募票を記入、作品の裏面に貼り付け、応募先へ郵送するか、直接お持ちください。

応募票ダウンロード先 → 協会HP <https://www.takatsuki-jinmati.org>

6. 表彰・展示

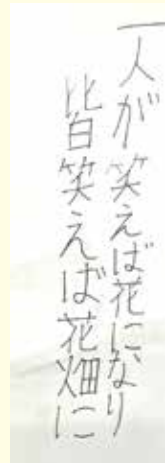
入選者は12月6日（金）・7日（土）に開催する「人権を考える市民のつどい」において、表彰式と展示を行います。

7. その他注意事項

- ① 応募作品は未発表のオリジナル作品で、著作権等の第三者が有する権利を侵害しないものに限りま。
- ② 応募は各部門1人1点とします。

8. 応募・問合せ先

高槻市人権まちづくり協会
〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-6 荒木ビル3階
電話：072-647-7825 / ファックス：072-647-7233



令和5年度 標語の部
最優秀賞作品



令和5年度 絵画の部
最優秀賞作品

編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会（☎647-7825）

「あくていぶ」は協会ホームページからご覧いただけます。

<https://www.takatsuki-jinmati.org/> **高槻市人権まちづくり協会**

Follow
Me!!



Instagram
takatsuki.jinmati

